

群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 32

請求番号	A0181A0M	文書番号	791 3-1	年代	明治 36 年 (1903)
史料名	鉱毒事件書類 (其二、足尾銅山鉱毒)				
形態	縦 27 cm × 横 36 cm	複製	あり	パネル	
備考	「授業で使えるぐんまの資料」に掲載				
史料概要	<p>『鉱毒事件書類』は、足尾鉱毒による群馬県内の被害状況や被害地における納税状況等を記した公文書であり、「其一」は明治 31 年～34 年、「其二」は明治 34 年～36 年に作成されたものである。</p> <p>明治 20 年 (1887 年) 頃から足尾銅山から廃棄される鉱毒 (硫酸銅や亜砒酸など) が渡良瀬川を汚染し、魚類を死滅させ、耕地を荒廃させる鉱毒事件が発生し、社会問題となった。そこで、鉱毒の被害調査が行われ、この地図が作成された。</p> <p>足尾鉱毒の被害状況を被害が重い順に、一等 (茶色)、二等 (明るい茶色)、三等 (淡い朱色)、四等 (青)、五等 (山吹色)、普通地 (灰色)、普通地より被害が少ない場所 (黄色)、無害地 (白色) と色分けされている。</p> <p>なお、足尾鉱毒の問題が表面化したのは日清戦争開始 (1894 年～) に近い時期であり、この史料が作成されたのは日露戦争 (1904 年～) の前年である。</p> <p>また、銅は当時の輸出品額 (1899 年) の 5.4% を占める外貨獲得の重要品目であった。</p>				
指導要領との関連	<p><中歴> C- (1) -ア- (エ) 近代産業の発展と近代文化の形成</p> <p><高探究> D- (3) -ア- (ア) 社会運動の動向</p> <p><歴総合> B- (4) -ア 近代化と現代の諸課題 開発・保全</p>				
活 用 例					
活用単元	近代化と現代的な諸課題				
活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・明治期における日本の近代化を振り返る学習の場面。開発・保全の観点から鉱毒被害の背景や原因、結果や影響などに着目して、原子力発電所問題、地球温暖化等、現代的な諸課題との関連を考察し、よりよい社会の実現を意識させる。 				
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「明治期における日本の近代化の過程で、環境に関してどのような問題が生じ、どのような対策が試みられ、それには当時どんな限界があったのか。」との問いを設定して、工業化にともなう環境の悪化を今日に続く課題として取り上げる。その一例として足尾鉱毒事件を挙げ、その史料の一部としてデジタル画像やパネルを使用する。 				
予想される生徒児童の反応など	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の被害状況を知って、より興味関心を高めることができる。また、東日本大震災の地震で旧古河鉱業の鉱泥堆積場が崩落し、渡良瀬川では川水の環境基準の 2 倍の鉛が検出されたという情報を追加すれば、より今日に続く課題と認識できると考えられる。 				

史料画像 裏面参照

